

第 46 回東京透析研究会 記録集

『外来通院下で透析導入した高齢患者のその後』

医療法人宝地会 吉川内科医院 土屋真奈美

【背景】 昨年本会において外来通院下で透析導入した患者を FIM（日常生活自立度評価表）を用いて導入前後の ADL を比較し、通院下導入が ADL 維持に効果的であったと報告した。

【目的】 外来通院下で透析導入した高齢患者の 1 年後の経過を評価し、今後の高齢導入患者への介入を考える。

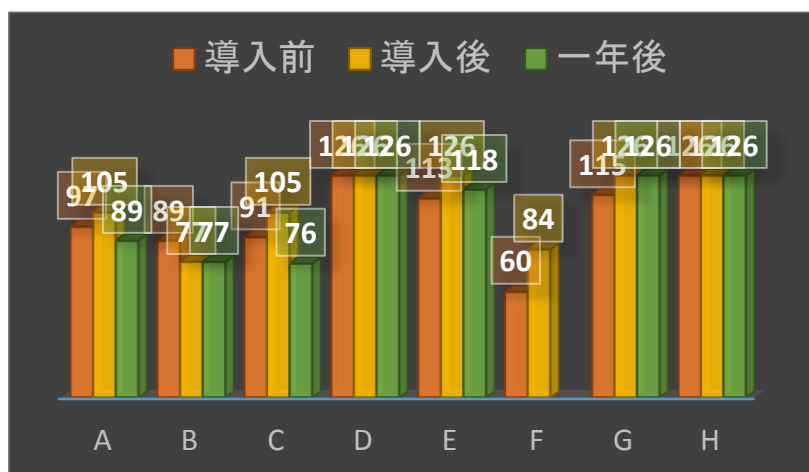
【方法】 ①2014 年 3 月から 2016 年 11 月までに外来通院下で透析導入した患者 8 名の 1 年後の FIM 値を測定。

②合併症発症の有無。

③患者の家族背景・介護保険区分と利用状況の調査。

【対象】 2014 年 3 月から 2016 年 11 月までに外来通院下で透析導入した患者 8 名。平均年齢 79.25 歳。男性 6 名女性 2 名

【結果】 ①導入前・後・1 年後の FIM 値の変化は下記のグラフに示す。



②合併症の有無では 4 名に転倒による骨折や脱臼があり、1 名に悪性腫瘍、1 名にイレウスがあった。合併症併発患者 6 名中 3 名が糖尿病性腎症だった。

③介護保険利用者は 5 名で、要支援 1=1 名、要介護 3=3 名、要介護 4=1 名。通院介助や入浴が主なサービス内容だった。6 名が介助可能な同居家族がおり、2 名は独居だが ADL は全自立だった。1 名が死亡の転帰をとった。

【考察とまとめ】 1 年後半数の患者で ADL 低下があり、主な原因は転倒だった。導入後の通院が安全に配慮した結果車椅子利用の機会が増え、筋力維持にはマイナスに働いた。また通院意外の外出の機会が減っ

たことも ADL 低下の一因と考えられる。介護保険を有効利用したリハビリやデイサービスの活用を積極的に利用する働きかけが必要である。導入時 FIM 値が最も低かった患者は 1 年以内に死亡したことから、ADL を維持できる時期での透析導入は更に検討必要なことである。

今後、高齢透析患者には ADL に加え栄養状態が予後に影響するため、栄養面からのリスクも抽出し FIM 値と同様に外来通院下導入の基準に含めて検討したい。